

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990600013		
法人名	特定非営利活動法人信貴山やすらぎ会		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	奈良県生駒郡平群町菊美台1丁目206-1		
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2971400144-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type">/www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2971400144-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和2年10月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな高台に立地し、生駒山上が一望でき、近隣には大型スーパーや平群町北公園があり日々の散歩に活用させて頂いており、地域のボランティアサークルの方々の協力を頂き、コーラス・フラダンス・民謡の会・ハーモニカ演奏等様々の場面で交流を図っており、地域サークルならではの入居者様との面識がある方も居られ旧交を温めて頂いたり楽しんで頂いています。四季折々の行事も積極的に開催し、入居者様に季節感を感じていただけるようにしております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は近鉄生駒線東山駅から徒歩5分の見晴らしの良い高台に位置している。法人代表者は信貴山真言宗大本山千手院貫主が務めている。副施設長は地域包括支援センター運営協議会委員を務め地域に精通している。8月に着任した管理者は「利用者さんへの思いは誰にも負けない」と自負し頼もしい存在であり、日常業務の中での管理者と職員、また職員同士のコミュニケーションが良く、暖かい雰囲気を利用者へ伝わり、心地よいサービスにつながっている。地域や町役場と深く関わり、近隣の事業所とも積極的に連携を図り、町全体のこれからを検討している事業所である。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+**+**) + (Enter+**-**)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の玄関に「理念」「運営方針」「介護規範」を掲示しつつも各職員並びに家族様に見ることができるようになっている	法人理念「介護は人なり」、ホーム理念「地域社会の一員として健康で楽しく安心して暮らせるような家庭的な環境で自立支援を行う」を掲げており、職員は日々の業務で認識を深めている。今年8月に新任の管理者は、より具体的で職員が取り組みやすい年間目標をたて、職員とともに実践していると考えている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響の為今現在は交流を控えています	自治会に加入し地域のクリーンキャンペーンに職員が参加し、利用者が近辺の公園への散歩やスーパーへ買い物途中で地域の方と挨拶を交わすなど日常的に交流している。昨年はお茶の稽古、ハワイアンダンス、オカリナ演奏など地域のボランティアの訪問を受けたり、地域のオレンジカフェやRun伴(認知症の啓発イベント)に参加して交流を図っているが、今年は中止となっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響で現在は自粛しております	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年1月31日を最後に開催されてません	昨年は、運営推進会議は町担当職員、地域包括支援センター職員、近隣事業所代表者等の参加を得て、2ヶ月に1回開催している。会議では事業報告、近隣の事業所間の情報交換、行政との意見交換を行っている。今年はコロナ禍で例年通りの運営推進会議は開催できていない。利用者の家族や地域住民の代表者などが参加していない。	地域密着型サービス事業所であることを認識し、地域の方たちの意見や助言を得るためにも地域団体等へ会議に参加要請の働きかけと、利用者の家族へも会議開催の案内や議事録を送り興味を持ってもらえるよう積極的な呼びかけの取り組みを期待する。また、会議の開催日の工夫や勉強会を取り入れるなど有意義な会議となる取り組みを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平群町の介護運営委員をしていますので連携はしています	コロナ感染予防対策について町担当職員からアドバイスを受け対応している。副施設長が地域包括支援センター運営協議会や高齢者見守りネットワークに参加し、昨年は県が後援するRUN 伴(認知症の啓発イベント)に職員が参加して雰囲気盛り上げるなど連携を図った。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	都度身体拘束に当てはまらないか職員で話し合い理解を深めている。	運営推進会議で身体拘束廃止委員会を開き、ビデオ学習して全職員の意識を高め拘束をしない介護を目指している。退院間もない利用者の転倒予防のため家族から拘束の要望があったが、拘束せず職員の見守りを強化し様子をみている。	身体拘束に関する事業所内研修の年間計画を立て、計画的な研修を行い実施記録の作成が望まれる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内研修を通じ高齢者虐待防止について正しい理解を深めている。また利用者様の日々の様子、職員の意見を見逃さないように防止に努めている	/	/

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援について都度職員からの意見を聞きながら出来るだけより良くなるように支援しています	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で契約時に良く説明をさせていただき理解・納得をいただいています	
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が訪問時に意見要望等を尋ね職員とも話し合い改善点を明示し家族様に理解していただいています	家族の面会時に意見や要望を聞き、内容は業務日誌に記録し職員間で共有している。家族から介護サービスについての要望はあるが、運営に関する意見はない。 運営推進会議へ家族に参加してもらい、意見や要望を聴く場とするために、家族に会議の開催案内や議事録を送り参加要請を行い、事業所の運営状況を家族と共に考える機会をつくる取り組みが望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は管理者が吸い上げ全体会議に要望をだし反映させています	管理者は職員と個人面談で聴いた意見や、職員が日ごろの気づきを書き込んだ業務日誌や連絡ノートから業務改善につなげている。職員同士のコミュニケーションは良く暖かい雰囲気を感じられ、それが利用者への心地よいサービスにつながっている。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の新体制に伴い職場環境の整備等を行い個々に見合った役割を与え格段に向上しています	
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスの影響で現在は行っていません	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響で現在行っていません	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントからの情報と家族様、ご本人の意見を聞き本人様に安心して暮らしていただけるように努めています		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その方のレベルや状況に応じてサービス提供をしている現在、畳部屋を使用されている利用者様もおられます		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族様が各サービスを利用したいご希望があれば出来る範囲での対応に努めています		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各職員が入居者様に寄り添い共に作業をしたり会話を楽しんだりしお買い物の希望があれば同行させていただいています		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様がいつでも訪問して頂いたり、電話で本人様と会話して頂いたり、配慮しています		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば電話で会話して頂いたり、iPadをお持ちの利用者様はリモートで会話をして頂いたりしております	例年は家族の面会が多く、家族と外食されたり法事等に列席されたり正月には帰宅される方もあったが、今年はコロナ感染予防のため面会を制限しているため、家族と窓ガラスを挟んで携帯電話で会話される方や電話やタブレットを利用する方もおられる。現在は15分間限定で短時間の面会を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席のご近所同士に話題を提供したりぼつんとされている入居者様がおられたらスタッフが積極的に声掛けさせていただき孤独感を味合わないよう支援しています		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前ご利用いただいていたご家族様より入居者様の近況を連絡頂くことがあります		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフが入居者様個々について会話や家族様よりの情報等で把握し検討しています	利用開始前に本人と家族から暮らし方や希望などを聞いた情報をアセスメントシートに記録し職員間で共有している。利用者の日々の会話や所作から新しい気づきをすることもあり、生活の様子を個人ケースに記録し、職員の気づきや特記事項は業務日誌に記録している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活環境、習慣、生活歴等を本人様・家族様より拝聴しサービス利用に役立てています		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前に拝聴した内容に沿って現状状態を把握に努めています		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や主治医、当時業所の看護師、各医療機関と連携しプランに反映出来るように努めています	兼任のケアマネジャーが管理者から利用者の生活の様子など聴き取った情報を基に介護計画を作成している。ADLへの対応を中心として安らかな生活を過ごすことを長期目標とし、手仕事や写真撮影など生きがいへのアプローチも援助内容に取り入れ、3ヶ月毎にモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者様のケース記録等で心身の状態、食事摂取、排泄状態等を把握し情報の共有を図り実践や介護計画の見直しに活用しています		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の状況変化については家族様訪問時拝聴または報告し柔軟に対応させていただきます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響で外出はできていませんが当施設のベランダから景色を眺めたり四季を肌で感じていただけるように努めています		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関より往診や受診をさせていただいております	事業所の協力内科医が月2回訪問診療を行っている。眼科医と皮膚科医は月1回の往診があり、歯科医師と歯科衛生士による訪問口腔ケアを月4回行っている。個人のかかりつけ医の受診は原則家族が付き添うが、家族の都合で職員が付き添うこともある。訪問看護を利用されている方もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が日々の健康管理に目を配りご利用者個々の健康状態を把握し、管理者・職員も入居者様の体調変化があれば相談しホームドクターに指示を求めたり受診・往診につなげています		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携医療機関も有り、検査・入院に際してはホームドクターより紹介状も頂き適切に対処できるように心がけています		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に際しては家族様の意向を書面にて記載頂き家族様の意向に沿うように努め当事業所内でも看取りにおけるマニュアルを作成し職員研修を行い家族様にも説明できるように取り組んでいます	利用開始時に「看取り介護指針」を本人と家族に説明し、同意書を得ている。本人が重度化した時には、再度家族の意向を確認して同意書を得て、協力医や訪問看護師と連携した看取りの体制は整えている。昨年は2名の方の看取りを行った。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急救命研修を行い各職員にも初期対応の重要性を再確認しそのときに備え緊急連絡網を作成しております		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い各職員に周知徹底を行っています	防災マニュアルを作成し、夜間想定避難訓練を年2回実施している。ホームは平屋建てであり、屋外への避難経路は容易に確保できている。地域の避難場所は近くの公園にあり、災害発生時に自治会の協力を日頃からお願いしている。米・飲料水・缶詰等を3ヶ月分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様一人一人の尊厳と尊重しながら、プライバシーを損ねないように声掛けを実施しています	トイレ誘導時にはタイミングを見計らい本人を傷つけない声掛けに配慮している。全職員が「利用者さんへの思いは誰にも負けない」と自負している。個人を限定できる関係書類は事務所に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が今どのようにしたいのか耳を傾け出来るだけ本人の意に添うように努めています		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活リズムを大切に出来るだけ希望に沿ったサービスが出来るように努めています		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の身だしなみには気配りし衣服の選択も本人様の意思を尊重するように努めています		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と共に配膳や食膳は出来なくなって来ましたがお盆を拭いたり、おやつ作りやイベント時の食事の準備は出来るだけ一緒に過ごす様に努めています	食事は夜勤者が朝食を用意し、昼・夕食は給食業者が納入する調理済みの主菜を温め提供している。利用者同士和やかな会話が弾むよう人間関係を配慮した席決めをしている。食事前には、誤嚥を防ぐための口腔体操を行っている。テーブルの高さは2種類あり利用者の体格や状態に合った高さを選んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の状況に応じてトロミやミキサー食、刻み食等を提供させて頂いています		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろんのこと、毎週歯科往診を協力歯科にお願いして口腔内の状態等を診察していただいています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の個々の排泄時間を記載し時間を把握しトイレ誘導を行い、また個々のトイレサインを見逃さず誘導するように努めています	一人ひとりの排泄チェック表をもとに適時なトイレ誘導を心がけ、一層の自立にむけた支援を行い、リハビリパンツに慣れない方もおられるが、オムツ外しに努めている。耳の遠い方へのトイレ誘導の声掛けを工夫して取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホームドクターと連携し便秘等の服薬支援を行い水分補給を促し便秘予防に努めています		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ホームドクターや協力医療機関の意見をベースにし入居者様の意向に沿い入浴して頂けるように支援しています	家庭的な浴槽で週2回入浴している。一人ごとに浴槽を洗浄して湯を入れ替え、気持ちよくゆっくり入浴している。時には入浴剤の使用や、ゆず風呂を楽しんでいる。シャワー浴への変更や傷や皮膚へのケア等、主治医の意見を取り入れている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の個々の意見に沿いながら休息を取って頂けるよう努め昼夜逆転にならないよう支援しています		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各スタッフがいつでも観覧出来るようにし変更時や追加薬については業務日誌、連絡帳にて周知し毎日定時にバイタルチェックを行いホームドクターよりの指示を頂き対応しています		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でスタッフとの洗濯たたみやカレンダー作りやカラオケ、童謡歌等を歌ったり楽しんで頂いています		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で現在は必要最低限の外出は控えていますがホームドクターや医療機関と連携し受診時の外出支援をしています	利用者の重度化が進み外出は困難になりつつあるが、近くの公園に出かけたり、スーパーに買い物に出かけている。日常的にウッドデッキに出て洗濯物を干したり、生駒山が一望できる最高の景色を楽しみながらお茶や会話を楽しんでいる。年3回、桜や紅葉を見にドライブに行くが、車窓からの見物にとどまることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様やご本にの強い希望があれば金銭所持を認めていますが必要な物があればご家族様に連絡し持って来ていただくか事業所にて購入させて頂いています		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の了解があれば事業所からのお電話をさせていただいていますし個人持ちの携帯電話をお持ちの方もおられます。また、はがきや手紙のやり取りの支援も行っております		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感を感じていただけるように季節に見合った飾りつけやドア飾りを作ったり、都度の温度・湿度管理・採光等に気を配り居心地よく過ごして頂けるように配慮させて頂いております	居間兼食堂は西向きで天井は高く、明るい木目調の内装は木の香りが漂う。廊下は広く、壁には季節ごとの切り絵や貼り絵の大作が飾られている。大型のソファと癒しスポットとなる1人掛けの椅子が配置されている。見守りの死角をなくすためにミラーが取り付けられている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が心地よく過ごせるように食事やおやつ等時にお席の配慮を考慮したり、ソファに移動しゆったりと過ごしていただけるよう配慮しています		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れた家具などを持ち込んでいただき写真や観葉植物を置いたり、ベッドに馴染めない方には畳部屋に変えたりし居心地良く過ごせるように配慮しています	居室はベッドとクローゼット・箆笥が設置され、畳敷きの部屋もある。窓から生駒山、眼下に公園を見渡せる。居室には使い慣れた家具やぬいぐるみ、写真などを持ち込み自分好みの部屋づくりとなっている。夏には熱中症予防の見守りウォッチで快適な温度を保つなど工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すり等を設置し、歩行器でも安全なように配慮し個々の能力に応じた声掛けや支援を実施しています		